I-30

雄勝半島集落周辺の自然植生についての調査

石巻市雄勝半島における地域の固有性・多様性に基づく集落再生に関する研究 その６

Investigation about the natural vegetation around the Ogatsu peninsula colony Research on the colony reproduction based on the indignity and diversity of the area in the Ishinomaki Ogatsu peninsula #6

山崎誠子[1],○加藤俊彦[2],西明慶悟[2],小島陽子[3]

This research conducts investigation of the natural vegetation of each beach of the OGATSU peninsula and the garden tree of a colony which suffered damage from tsunami as part of the research which aimed at local reproduction and architectural designs, such as a revival residence, for revival by the Great East Japan Earthquake. This records "green memory" and it aims at using the result as the underlying data of such as heights relocation. This paper reports the vegetation of the plant regarded as having grown wild automatically among the vegetation in a census tract. Moreover, when advancing investigation of natural vegetation, it is the vegetation around shrines which becomes important.

１．はじめに

本研究は，東日本大震災復興を契機とした地域の固有性・多様性に応える地域再生と復興住宅等の建築設計を目指した研究の一環として，津波で被害を受けた雄勝半島の各浜の自然植生と集落の庭木の調査を行い，「緑の記憶」を記録し，その結果を高台移転やコミュニティ施設、公園・街路へと継承する際の基礎資料にすることを目的としている．

調査は、2013 年 9 月 2 日~4 日の 3 日間、東日本大震災の津波で流された地区と，現在も居住している地区においてそれぞれ代表的な集落を選定し，自然植栽と庭木の種類や分布を白地図にプロットし，記録写真の撮影を行った．植栽の種類や特徴などの記録は専門家とともに目視で行なった．

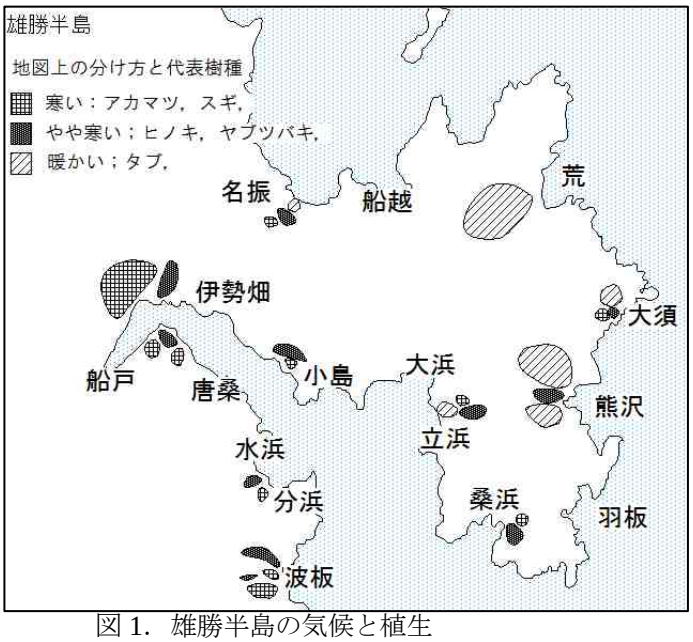

図 1．雄勝半島の気候と植生

本稿では自然に自生したと見られる植物の植生について報告する．

２．雄勝半島の各地区の概要

自然植生や地域の植栽は，地形や自然環境と関係するため，まず雄勝の地形と各浜の特徴を整理する．雄勝半島は，雄勝湾を囲む地域と，半島の東側及び北側の外海に面する地域で大きく環境が異なる．そこで湾の奥にあたる船戸，伊勢畑，唐桑，小島と，湾の南側にあたる水浜，分浜，波板，北側にあたる大浜，立浜，桑浜，さらに外海に面する半島の東側にあたる羽板，熊沢，大須，荒，そして北側における船越，名振地区の調査を行った．これらの調査結果を参考に、植物から雄勝の各浜の特徴を読み取っていく．

３．各地区の自然植生の分布と特性

【伊勢畑地区】

雄勝湾の奥に位置する伊勢畑では，寒冷地でも育つアカマツやスギが確認出来た．又，アカマツやスギは潮害に弱いという特性も持つ．このことから伊勢畑地区は，気候が寒く，潮風があまり吹き込まない地区であったことが分かる．

【荒地区】

外海に面する荒地区では温暖な環境で自生するタブノキの林を見ることができた．又，タブノキは潮害に強いという特性をもち，周辺には潮害に弱いアカマツやスギは見られなかった．このことから，荒地区は，雄勝湾周辺の地区と比べ，気候が暖かく，潮風が強く吹く地区であることが分かる．

１：日大短大・教員・建築・生活デザイン　２：日大理工・院（前）・建築　３：日大理工・PD・建築

調査結果よりこの地域に多く自生していると見られる植物は，スギ，ヤブツバキ，ヒノキ，タブ，アカマツ，シュロであると見られる．これらの植物の特性を表 1 に示す．潮害に強い植物かそうでない植物かという植物の特性から，各地区の潮風の向きや強さを知ることができる．外海に面する荒や大須，熊沢地区は，雄勝湾周辺地域の植生と比べて，暖かい場所に自生するタブなどの植物が多く見られた．

表１．雄勝の自然植生と潮害の関係[1] [2]

潮害強	ヤブツバキ，マサキ，ネムノキ，キヅタ，タブノキ，トベラ，クロマツ，アキニレ，ナンテン，
潮害中	ヒノキ，イヌガヤ，フジ，カヤ，ハギ類，ガマズミ，クサツゲ，スイカズラ，
潮害弱	スギ，アカマツ，ヤマザクラ，モミジ類，モミ，ヤマブキ，ムラサキシキブ，

４．神社周辺の植生について

植生の調査において神社周辺の植生も重要である．神社周辺は、正面には神事や祭り事に使うための植物が人工的に植えられているが，裏手は、鎮守の森として自然植生がそのまま残されている，自然植生と人工植栽の境にあたる場所である．

神社周辺に見られる植生は，自然植生では伊勢畑地区では潮害に弱く寒い環境でも育つスギが見られ，熊沢地区では潮害に強いヤブツバキや，比較的暖かい場所で育つタブノキが見られるなど，地域ごとの環境にあった植生であるのに対し，人工植栽では，気候や環境に関係なく，伊勢畑地区と熊沢地区の両方で，潮害に弱いシダレザクラやソメイヨシノが植栽されていた．

以上のことから，神社周辺の植栽の特性として，神社正面に当たる箇所にはサカキ，ヒサカキやソメイヨシノなど，政に使用したり，美しい花を愛でたりといった植物が人為的に植栽されていることが分かる．一方，神社の奥へ進むにつれて，人の手がはいらない，自然本来の植生が残されていることが読み取れる．

５．まとめ

雄勝における自然植生の分布，植物種の調査により，雄勝半島では，一般的に東北地方で見られるスギやアカマツなど寒冷地で育つものだけでなく，タブノキといった比較的暖かい地域で育つ植物も自生しているという結果がえられた．これらの調査結果は、移転先に「緑の記憶」を蘇らせる上で重要であると考える．

本研究は，日本大学理工学プロジェクト「東日本大震災復興を契機とした地域の固有性・多様性に応える地域再生と復興住宅等の建築設計に関する研究～宮城県石巻市雄勝町を対象として～」を基に行っている。

【参考文献】

[1] 山崎誠子＋建築知識編集部：「新・緑のデザイン図鑑」，pp.243，2009

[2] 山崎誠子：「樹木別に植栽プランが分かる　植栽大図鑑」，2013

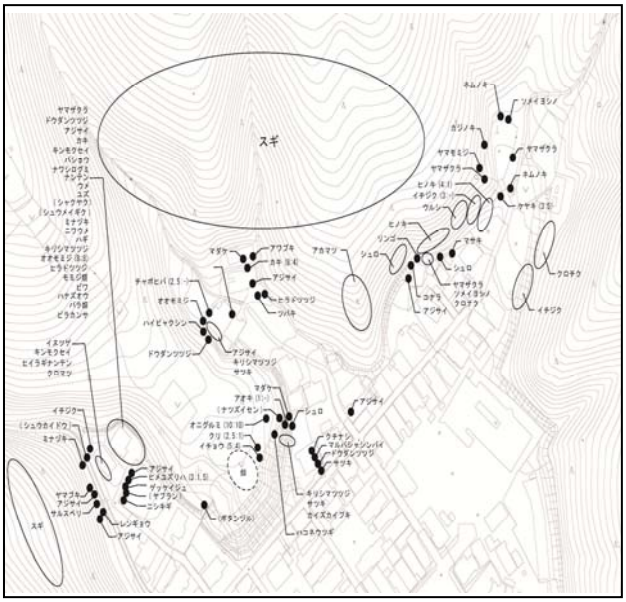

図 2．伊勢畑地区における植生プロット

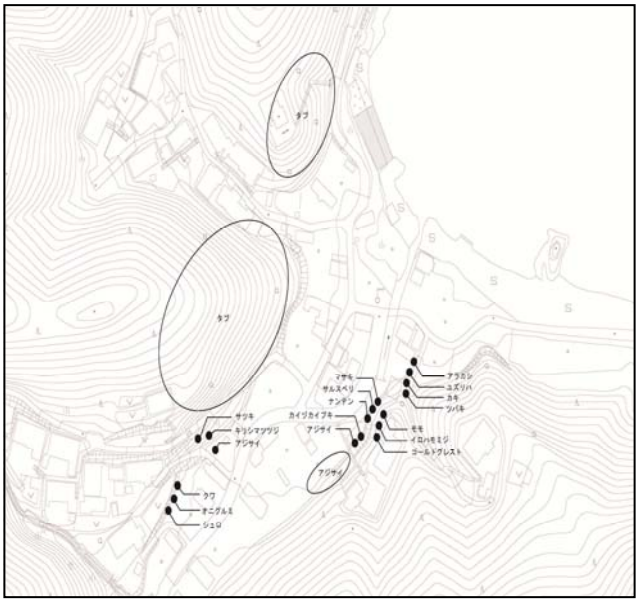

図 3．荒地区における植生プロット